

RSSC 初春の課外活動
哲学堂公園見学会
— ヴィジュアルに哲学する —

担当 高橋輝暁

哲学堂公園は、東洋大学を創立した哲学者井上円了（いのうええんりょう, 1858-1919）により、哲学を通じた精神修養と社会教育を目的として、1904（明治 37）年に創設されました。概念的な哲学の世界をヴィジュアル化した個性的な庭園で、近年は「哲学のテーマパーク」といわれています。

井上円了が最初に建設した「四聖堂」（しせいどう）には、洋の東西を代表する哲学者として、孔子（中国哲学）、釈迦（インド哲学）、ソクラテス（西洋古代哲学）、カント（西洋近代哲学）が祀られています。正門の右の門柱には「哲学関」、左の門柱には「真理界」と記され、その間を通ると、そこはすでに哲学の世界です。「四聖堂」を望む「哲理門」が「妖怪門」とも呼ばれるのは、左右の袖に仁王像よろしく天狗と幽霊がいるからです。天狗は物質界の不可思議を、幽霊は精神界の不可思議を象徴します。「妖怪学」の創始者として「お化け博士」との異名をもつ井上円了ならではの仕掛けです。

「唯物園」（ゆいぶつえん）と「唯心庭」（ゆいしんてい）は、さまざまな哲学的概念を具象化したアイテムに満ち、絶景というべきでしょう。朱塗りが美しい六角形の塔「六賢台」は、日本の聖徳太子と菅原道真、中国の荘子と朱子、インドの竜樹（りゅうじゆ）と迦毘羅（かびら）の六賢人を祀っています。三角形の築山の上、公園のいちばん高い所にある「三学亭」は、神道、儒教、仏教の三道をそれぞれ平田篤胤（ひらたあつたね）、林羅山（はやしらざん）、釈凝然（しゃくぎょうねん）が代表する三角形の東屋（あずまや）ですから、日本哲学の象徴です。まだまだあります。

本見学会は、下記の通り、① オンラインによる講義と「覗き見ヴァーチャル・ツアー」および ② 哲学堂公園現地ツアーから成る 2 日間のプログラムです。①だけの参加も可能です。ただし、②の現地ツアーのガイドでは、①の聴講を前提として説明します。

① オンライン講義と「覗き見ヴァーチャル・ツアー」

- ◆ 実施日時 3月27日（月）14:00～16:00
- ◆ 参加資格 RSSC 受講生および修了生
- ◆ 実施方法 Zoom ミーティングによるオンライン方式（入退出自由）
- ◆ Zoom ミーティング参加のためのデータは、受講生には事務室から送信、修了生には同窓会から送信します。
- ◆ 内容 哲学堂公園にちりばめられた哲学的アイテムや仕掛けなどの見所の理解に資するために、井上円了の哲学を中心に説明します。そのあと、「哲学堂七十七場紹介ビデオ」を見ながら、ヴァーチャル・ツアーで庭園内の一端を「覗き見」します。

② 哲学堂公園現地ツアー（参加資格は 2022 年度 RSSC 受講生のみ）



哲理門



四聖堂